



ニュースレター

2023年10月12日配信版

悲しみに暮れるイスラエルからシャローム。予定より早い便に乗ろうと何日も努力した後、昨日やっと家に帰ることができました。私がここで見たものは、傷つきながらも決意に満ちた国でした。これまで、私たちはテロリストに取り囲まれ、国民が一人一人殺されていくのを耐え、私たちが反撃するときは、私たちに対して行われた殺人行為に見合った報復方法を用いてきました。しかしその後、テロリストの軍隊がガザから侵攻し、1200人以上の罪のない乳児、子供、老人、女性、男性を惨殺したのです。テロリスト達は彼らを撃ち、焼き、刺し、首を切り落としました。その時点で、もはやテロリストへの報復ではありません。私たちは戦争状態にあったのです。

今日、この文章を書くにあたり、私の感情は、すべてのイスラエル同胞の感情とともに、まだ生々しいものであることをご理解ください。アメリカの皆さんは、9/11の5日後にどう感じたかを考えてみてください。事実を淡々と伝えるよう努めますが、私の言葉の中に非情な部分があることを理解していただけると幸いです。ガザには、指導者や同胞が行ったことに同意できない人々がいることを、私は認識しています。彼らの邪悪な行動のために、あなた方が耐えなければならないことを残念に思っています。しかし、もう一度言いますが、これは戦争なのです。あなた方はイスラエル国防軍（IDF）の犠牲者ではありません。あなた方は、あなた方自身の指導者の犠牲者なのです。

このニュースレターではまず、現在の状況を簡単に説明することから始めたいと思います。テロ攻撃で最初に何が起こったかについては、私が日曜日に発行したニュースレター「[スペシャルニュースレター：イスラエルでの戦争（日本語版はこちら）](#)」ですでに取り上げているので、ここでは取り上げません。まだ読んでいない方は、ぜひ読んでみてください。このニュースレターでは、前回のニュースレター以降の動きを中心に伝えします。そして、関係者について、イスラエルの友である事を

示した側と、敵であることを明確にしている側を見て、最後に将来を見据え、この攻撃に対するイスラエルの対応を3つのレベルで説明します。

現在の状況

イスラエルは、3つの前戦で戦争を戦っている。北東部では、迫撃砲弾がシリアから国境を越えて発射されている。この地域はイランが支援する代理民兵の活動の温床となっているため、イスラエル国防軍はその地域を注意深く監視している。また、ウクライナでの戦闘のためにシリアから兵力を吸い上げているため、その数は減少しているものの、ロシアも同地域に強い存在感を示し続けている。

第二の前線は、北部のレバノンである。ヒズボラはイスラエルに特殊部隊を派遣し、国境越しにロケット弾を発射しており、イランのイスラム革命防衛隊（IRGC）や、カタイブ・サイード・アル・シュハダのようなイランの代理民兵組織の指導者たちが、レバノンでテロ行為を指揮している。ヒズボラ指導部は、イスラエルと米国の両方に対して非常に声高に批判している。私は、IRGC がヒズボラに圧力をかけているため、この戦線はまもなく爆発すると予想している。

主な前線は南のガザにある。ここはイスラエルに対する攻撃が始まった場所であり、ハマスが拠点を持っている。ガザが戦場のように見えるのは、まさにその通りだからだ。イスラエル国防軍は、イスラエルの南の敵であるテロ組織ハマスとイスラム聖戦を壊滅させる任務を負っている。彼らを見つけたなら、根絶しなければならない。ガザで次々と建物が崩壊していくのが見られるのはそのためだ。これは警察活動ではない。私たちは、犯罪者を見つけるために、我が国民に一軒一軒を訪ねさせるような危険を冒すつもりはない。これは戦争であり、それは敵の武器、資源、隠れ家、人員を破壊することを意味する。戦争を理解している人は、建物を完全に崩壊し、電気や水道の提供を遮断する必要性を認識している。そうでない人は、「不公平だ！やりすぎだ！」と叫ぶ。そのような否定的な者たちは、首を切られた乳児や、生きたまま焼かれた家族の写真を実際に見ても、同じような反応を示すのだろうか。ガザで戦争遂行するイスラエルの強さに、世界、特にヨーロッパでの同情的な感情が逆転することが予測される。

イスラエルでは、40万人以上の予備兵が招集され、私たちは強く、国家として団結している。また再び、9/11を思い出した。国民として、私たちはあの悲劇的な日にアメリカがいた場所にいる。社会的、政治的な相違はすべて別の機会においておき、ベンヤミン・ネタニヤフ首相は、自身と、ベニ

ー・ガンツ元首相兼国防相、ヨブ・ギャラント現国防相、ガディ・アイゼンコット元国防参謀総長、ロン・デルメル戦略相からなる戦時特別緊急政府を発足させた。この統一政府の唯一の目的は、平和と安全が再び達成されるまで、戦争を成功裏に遂行することである。

イスラエルのグローバルフレンド

アメリカ

困難な時代にこそ、誰が真の友で誰が敵なのかを知ることができる。イスラエルの友であることを他のどの国よりも示しているのは、米国である。私がこの政権に強く反対するすべての分野において、この政権は、私たちの自衛する働きを支援するために強く歩み寄ってくれた。称賛に値するところは称賛しなければならない。今起きていることは政治ではなく、戦争なのだ。そして、米国は私たちの最も親しい戦友である。

火曜日、U.S. ジェラルド・R. フォード空母打撃群は、他国、すなわちレバノンの戦争関与に対する抑止力として、東地中海に到着した。ヒズボラは即座に米国に対して非難の声を上げ、空母に脅かされることはないと言ったが、彼らは脅かされるはずである。米国はまた、イスラエルの武器と弾薬の備蓄を補充している。その中には、現在米国の監視下にあるアイアンドーム砲台 2 基をイスラエルの管理下に移せという、各党から 2 名ずつ、計 4 名の上院議員による要請も含まれている。アメリカ合衆国が私たちの側にいてくれることは、イスラエルにとって大きな恵みだ。

ヨーロッパ

国連ではパレスチナ人を軽視していると見られないよう、イスラエルに不利な票が投じられてきたが、欧州からの支持は驚くほど強力である。おそらく初めて、多くの人々がガザの過激派の中に、私たちが何十年も対処してきたものを見ているのだろう。ランドマークや政府の建物が、イスラエルの青と白でライトアップされたり、イスラエル国旗が掲げられたりしているのは、非常に感動的であった。ヨーロッパ中の政府指導者から、支援と励ましの言葉が寄せられた。つい昨日は、他でもなくドイツの連邦議会が、イスラエルの犠牲者のために 1 分間の黙祷を捧げていた。アメイジング！

ヨーロッパの支援は、単に視覚的な励ましだけではない。イギリス、フランス、イタリア、ドイツの政府は、米国とともに、ハマスの戦争に参戦しようとする、いかなる第三国にも対抗することを

約束する連合を組んでいる。レバノンの多くの人々は、この連携が主に自分たちに向けられていることを知っている。レバノンのハタイブ・クリスチャン党の党首は、ヒズボラに対し、自分たち全員が大きな代償を払うことになる紛争に、自国を引きずり込まないように警告した。

中東

ヨルダン、米国がイスラエルを支援するために、第 101 空挺師団を自国の基地に配備することを許可した。アラブ首長国連邦は、イスラエルに対する攻撃を強く非難し、シリアのアサド大統領に戦争に参加しないよう警告した。ガザへの物資輸出の試みをめぐって、初め、エジプトと問題が生じたが、イスラエルとその南の隣国との間には平静が保たれている。カイロは、ガザ難民に国境を開放し、イスラエルの人質がテロリストによって解放された場合には、その人質を受け入れる意向さえ示している。

イスラエルの世界的な敵

イラン

北からの攻撃の責任者はイランだ。彼らは代理民兵を募集した。資金を提供し、訓練し、配置し、そして今では彼らを配備している。間違いなく、この紛争を、非常に大きな代償を払うレベルまでエスカレートさせたのは、テヘランの宗教的暴君たちだ。

ロシア

ロシアの大統領ウラジーミル・プーチンは、この紛争の責任はイスラエルにあると非難している。モスクワとエルサレムの関係は、ガスと、シリアとの継続的な紛争を巡り悪化している。ガザのテロ侵攻に使われた手法のいくつかは、ロシアの関与を匂わせており、攻撃者の訓練にロシアが関与していたと聞いても不思議ではない。

急進左派

子供たちの殺害、乳児の首切り、家族が生きのまま焼き殺され、人質の強姦と拷問の報道があったにもかかわらず、世界中の都市で何千人もの人々が、ハマスを支援するために街頭に繰り出したことには驚かされる。まじめな話だ。時に私は、悪だけでなく、悪の極悪非道な行為を急進左派が喜びに満ちて支持していることに仰天する。残念ながら、戦争が続けば続くほど、このような人々の心ない

冷酷な叫びに耳を傾け、彼らの側に流される人が増え、やがてイスラエルは、自衛することで再び悪者とみなされるようになるだろう。なぜ私はそう思うのか？私はこれまでに同じ映画を何度も見てきたからだ。

次の段階は？

第1段階 - イスラエルからテロリストを一掃する

これは、言うは易し行うは難しである。今日に至るまで、テロリストは南部に潜伏している。しかし、より大きな懸念は北部にある。このニュースレターが発行されるまでに、この地域が爆発していないとしても、私は多くのイスラエル人と同様、近いうちに爆発すると信じている。昨日、北方からドローンと航空機の侵入の通知があったため、私と家族は防空壕に避難、結局、この国が経験したすべてのセキュリティ警告は、サイバー攻撃の一部であったことが判明した。それでも、近い将来、私たちが受け取る警報が現実になるだろうと、私たちは皆考えている。

第2段階 - ハマスとイスラム聖戦の破壊

レバノンのヒズボラ、イエメンのフーシ派、アフガニスタンのタリバン、シリアとイラクの ISIS、そしてその他のテロリスト集団を、このイスラエルへの攻撃に加えることができる。私たちはテロリズムとあまりにも長い間戯れてきた。ガザ、ヨルダン川西岸、そして北部国境のテロリストたちは、大胆になり、深く根付き、そして十分な供給を受けている。彼らは、私たちの同情心や、相応の報復に対する躊躇を利用してはいる。しかし、今、本気の戦いが始まり、イスラエルはこれらのテロリストが脅威リストから永久に外されるまでたたき続ける。

第3段階 - 支援した国々を追求・追跡

ハメネイよ、お前はもう代理民兵の後ろに隠れることはできない。武器、訓練、資金を提供しているのはお前だと、誰もが知っている。お前の指導者達の命令により、お前の無知な戦う羊たちが送り出され、屠られている事を私たちは知っている。私たちはこれまでずっと、それを放置してきたが、もはやこれまでだ。それは、ウラジーミル、レジェップ、そして中東でテロの糸を引いている他の操り人形の主人たちにも当てはまる。私の小説を読んだことのある人なら、「誰かが殺しに襲って来たなら、先に立ち上がってそいつを殺せ」というタルムードの古い格言を知っているだろう。私たちイスラエル人は、私たちが殺しに来る人間にうんざりしている。今こそ立ち上がるときだ。

私たちは長期戦の最初の段階にある。状況が好転する前にさらに悪化するとは言えない。イスラエル南部ですでに起こっていること以上に邪悪なことは想像できないからだ。私は、この出来事を第二の9/11に例えたが、写真を見たり話を聞いたりすると、これは第二のホロコーストにほかならない。数の面では違うかもしれないが、残忍さと悪の深さにおいては間違いない。それにしても恐ろしい数だ。人口に比例すると、26,000人もアメリカ人が1日で惨殺されたようなものだ。しかも、全員が犠牲になるような膨大な出来事ではなく、罪のない人々が次々と殺されていったのだ。子どもが親の目の前で、親が子どもの目の前で。パーティーで銃殺され、ベッドの上で撃たれ、路上で処刑された。絶対的な野蛮行為である。

しかし、最悪の時でも神は恵みを示してくださる。昨日、私はそのことを思い出した。多くの人々から、土曜日のテロ事件の犠牲者のために、どのように貢献できるかと問い合わせを受けたため、私は友人のヨナタン・ドゥービー氏に連絡したところ、彼は個人的に精査した[団体のリスト（日本語版）](#)を提供してくれた。そのリストを送ったところ、圧倒的な反響があった。非常に多くの人々がこれらの団体に寄付をしてくださり、対処が追いつかないほどだった。神はいつくしみ深いお方です。私の国の人々を祝福するために犠牲を払ってくださった多くの皆さんを通して、神は御自身を示してくださいました。

イスラエルのためにお祈りください。私たちの指導者、特に緊急政府の指導者たちのため、軍隊のためにお祈りください。何十万人もの国民が、一時的に軍に戻るため、仕事と家を離れました。ご遺族のためにお祈りください。負傷者の回復のためにもお祈りください。人質になっている人、人質になっていた人のためにもお祈りください。非常に多くの人々が、これ以上ない暴力的な形で残虐行為を受けてきました。そして何よりも、このすべての出来事において神が何らかの形で栄光をお受けになるよう、お祈りください。神は善いお方です。神は神です。私たちは神のやり方を信頼しています。

このニュースレターの最後に、イスラエルと、この攻撃の背後にある動機をより深く理解するための重要なリソースをいくつかご紹介します：

「[“The Final Jihad”](#)（[日本語字幕版：ファイナル・ジハード](#)）」

このビデオはイスラム過激派を深く考察し、聖書のレンズを通して解説しています。

「[“The Deception of the Nations”](#)」 (日本語字幕版：諸国の欺き)

このビデオは、イスラエルについて世界が信じている5つの嘘について考察しています。

「[“His People?”](#)」

10月13日(金)午後12時(太平洋夏時間)に公開されるこのビデオは、「神はご自分の民を捨てられたのか?」という問いに明確に答えています。

主の来臨を待ち望む。

Amir Tsarfati

ビホールド イスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@BeholdIsraelJapanese>

日本語の聖書箇所は特記がされていない限り新改訳2017より引用しています。

聖書 新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会

メッセージの無断転載を固く禁じます。

Copyright © ビホールド・イスラエル All Rights Reserved.

